

「仏さまの心に支えられて」

島根県大田市 慈雲寺住職 引田佳山

4年前の島根県西部地震で、私が住職をしておりますお寺の建物が傾き、壁に亀裂が入り、境内の墓もほとんど倒壊し、甚大な被害を受けました。また、住まいも損壊し、家族で本堂での避難生活を余儀なくされました。

途方に暮れていた時、よそのお寺のお檀家の男性が訪ねて来られました。「大して足しにもならないでしょうが、せめて気持ちだけでも」と、思いもよらない額の浄財を持って来られたのです。その男性は、毎月の托鉢でも浄財を必ず入れて下さり、お寺で月に一度の坐禅を一緒にしています。「住職さんは、托鉢で必ず私の家のお地藏さんに手を合わせ、お経を唱えて下さいます。それが、たいへんありがたいのです。せめて、お寺の復興の足しにでもして下さい。お体に気を付けて、また頑張っていたきたいのです」と私の心に寄り添って下さいました。

また後片付けに追われる私に、多くの方々から励ましの言葉、思いやりの言葉、慈しみの言葉をいただきました。僧侶としては、同じように被害に遭われた方々に寄り添い、心の支えとならなければならぬのに、反対に皆様から、大きなお力添えと励ましの言葉をいただくことになりました。

お釈迦様は「私たち誰しもが、仏の性質を持って、生まれて来ている」と説かれました。しかし、私たちは「自分だけは」というわがままな心をもっているのです。なかなか仏さまの姿を現すことが出来ません。皆さまの心の中に「仏さまのお心」があることを知り、ありがとう日々の精進の力とさせていただけます。多くの方のお支えと、尊いお心遣い、ご尽力のおかげで、傾いた建物を解体することができ、住まいも確保でき、復興に向けて前に進むことが出来ました。